

医療薬学 実習

[実習] 第4学年 通年 必修
 [授業方法：PBL、SGD、ロールプレイを含む]
 4単位

《担当者名》教授 / 平野 剛

准教授 / 岩尾 一生 准教授 / 木村 治 講師 / 中山 章 講師 / 櫻田 渉 講師 / 早坂 敬明
 講師 / 高村 茂生 助教 / 藤崎 博子 助教 / 及川 孝司 助教 / 山本 隆弘 助教 / 奥田 衣理
 助教 / 坂東 拓哉 特別講師 / 阿部 真也 特別講師 / 江口 文明 特別講師 / 石橋 宜子
 特別講師 / 倉増 久子

なお、本実習では上記以外の教員も学生の実習習熟度の評価のために参加することがある。

【概要】

第4～5学年に行われる長期実務実習では、幅広い基礎的知識や技能を活用して医療現場における種々の事柄に対応する必要がある。本実習を通じて、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。また、長期実務実習に対応するために必要な基礎的なコミュニケーション能力及び調剤実務における基本的技能を修得する。さらに、本実習は少人数によるグループディスカッションやPBL形式の授業を盛り込み、薬剤師として必要な知識及び態度を修得する。

【学修目標】

医療人として患者と接するうえで適切な態度を身に付ける。
 患者に対して適切に態度で初回面談ならびに服薬指導ができる。
 医師に対して適切な態度で疑義照会ができる。
 医療における危機管理の重要性を理解し、実践できる。
 処方せん内容を理解し、計数とその監査を実践できる。
 処方せん内容を理解し、散剤・水剤ならびに軟膏剤の計量調剤とその監査を実践できる。
 注射剤調剤を実践できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|------------------|--|--|
| 1 | ガイダンス・調剤基礎 | ガイダンス 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能） 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能） 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能） 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -3、F-(2)- -1,3,6 | 担当者全員 |
| 2 | 計数・計量（散剤）調剤・監査実習 | 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能） 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能） 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる（知識・技能） 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,8 | 平野 剛 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 3 | 計量（水剤・軟膏）調剤実習 | 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能） 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能） 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3 | 平野 剛 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 4 | 無菌操作実習 | 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能） | 平野 剛 木村 治 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|--------------|------------------------|--|--|
| | | <p>抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)</p> <p>衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -6,7、F-(2)- -5</p> | 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 5) 6 | フィジカルアセスメント実習 | <p>基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(3)- -4</p> | 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 7) 8 | マナー演習 | <p>常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)</p> <p>相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</p> <p>自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</p> <p>適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</p> <p>適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</p> <p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</p> <p>患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)</p> <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(1)- -1、A-(3)- -5~9、A-(3)- -2、F-(1)- -2、F-(2)- -1</p> | 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 坂東 拓哉 特別講師 石橋 宣子 |
| 9) 10 | 医療コミュニケーションの実践 | <p>相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)</p> <p>自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)</p> <p>適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)</p> <p>適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)</p> <p>他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>【SGD、PBL】</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(3)- -5~9、F-(2)- -1</p> | 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 坂東 拓哉 特別講師 江口 文明 |
| 11 | 中間まとめ | <p>ここまでの実習について、振り返り学修を行い理解度及び習熟度を高める</p> | 担当者全員 |
| 12 | A 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習 | <p>薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)</p> <p>処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模</p> | 平野 剛 木村 治 中山 章 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|----------------------------|---|---|
| | | <p>擬》。(技能) 処方せんに基づき、調剤された薬剤の監査ができる (知識・技能) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施 できる。(知識・技能) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード 回避の基本的な手技を実施できる。(技能) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを 実施できる。(技能)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,6,7,8、F-(2)- -5</p> | 櫻田 涉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| | B 医療コミュニケーション実習 | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の 個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応が できる。(態度) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬 》。(態度) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、 既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴 等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。 (知識・態度) 患者及び種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、 看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必 要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工で きる《模擬》。(知識・技能) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者 情報収集ができる《模擬》。(知識・技能) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者 について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応 の選択ができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -1,3、F-(3)- -2、F-(3)- -1 、F-(3)- -2、F-(5)- -2</p> | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| 13 | A 医療コミュニケーション実習 | 12回目Bと同じ | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| | B 計数・計量調剤・監査・無菌操作実 習 | 12回目Aと同じ | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 14 | A 計数・計量調剤・監査・無菌操作実 習 | 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記 入できる。(技能) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模 擬》。(技能) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる (知識・技能) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施 できる。(知識・技能) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード 回避の基本的な手技を実施できる。(技能) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを 実施できる。(技能) | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|------------------------|--|--|
| | | 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,6,7,8、F-(2)- -5 | |
| | B 医療コミュニケーション実習 | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>患者及び種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -1,3、F-(3)- -2、F-(3)- -1、F-(3)- -2、F-(5)- -2</p> | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| 15 | A 医療コミュニケーション実習 | 14回目Bと同じ | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| | B 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習 | 14回目Aと同じ | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 16 ┆ 20 | 中間まとめ | ここまでの実習について、まとめ、各自の学習到達度の低いと考えられる分野について習熟度を高める。 | 平野 剛 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 坂東 拓哉 |
| 21 | 教員による学習到達度の評価とフィードバック | 実習内容について技能習熟度および態度を試験する。 | 平野 剛 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 山本 隆弘 奥田 衣理 坂東 拓哉 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|------------------------|--|---|
| 22 | A 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習 | <p>薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）</p> <p>処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能）</p> <p>処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる（知識・技能）</p> <p>無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）</p> <p>抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）</p> <p>衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,6,7,8、F-(2)- -5</p> | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| | B 医療コミュニケーション実習 | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。（態度）</p> <p>患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。（知識・態度）</p> <p>患者及び種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。（技能・態度）</p> <p>薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。（知識・技能）</p> <p>代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。（知識・技能）</p> <p>代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。（知識・態度）</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -1,3、F-(3)- -2、F-(3)- -1、F-(3)- -2、F-(5)- -2</p> | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| 23 | A 医療コミュニケーション実習 | 22回目Bと同じ | 岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘 |
| | B 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習 | 22回目Aと同じ | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |
| 24 | 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習のまとめ | <p>薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）</p> <p>処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能）</p> <p>処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる（知識・技能）</p> <p>無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）</p> <p>抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）</p> <p>衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを实</p> | 平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 渉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-----------------------|---|--|
| | | <p>施できる。(技能)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,8、F-(2)- -1,3,6,7、F-(2)- -5</p> | |
| 25 | 医療コミュニケーション実習のまとめ | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>患者及び種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>処方せん等に基づき疑義照会ができる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)</p> <p>患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)</p> <p>代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)</p> <p>代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)</p> <p>代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -6、F-(2)- -1,3,4,6,8、F-(3)- -2、F-(3)- -1、F-(3)- -2~3、F-(5)- -2~4</p> | <p>岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘</p> |
| 26 | 教員による学習到達度の評価とフィードバック | <p>実習内容について技能習熟度および態度を試験する。</p> | 担当者全員 |
| 27 | 計数・計量調剤・監査・無菌操作実習のまとめ | <p>薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)</p> <p>処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。(技能)</p> <p>処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる(知識・技能)</p> <p>無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)</p> <p>抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)</p> <p>衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実</p> | <p>平野 剛 木村 治 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 奥田 衣理 坂東 拓哉</p> |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|-------------------|--|--|
| | | <p>施できる。(技能)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(2)- -1,3,8、F-(2)- -1,3,6,7、F-(2)- -5</p> | |
| 28 | 医療コミュニケーション実習のまとめ | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と応対できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>患者及び種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>処方せん等に基づき疑義照会ができる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と応対できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)</p> <p>患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)</p> <p>代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)</p> <p>代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)</p> <p>代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -6、F-(2)- -1,3,4,6,8、 F-(3)- -2、F-(3)- -1、F-(3)- -2~3、F-(5)- -2~4</p> | <p>岩尾 一生 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 山本 隆弘</p> |
| 29) 33 | 中間まとめ | <p>ここまでの実習について、まとめ、各自の学習到達度の低いと考えられる分野について習熟度を高める。</p> | <p>平野 剛 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 坂東 拓哉</p> |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|-------------------------|---|--------------------|
| 34) 35 | 実務実習概論・実りある実務実習に向けて | 実務実習事前学習の目的を概説できる。 これまでの学習・実習によって得られた知識・技能・態度について復習し、さらに向上すべき点を列挙できる。 実務実習におけるカリキュラムの意味を説明できる。 | 平野 剛 岩尾 一生 |
| 36 | 実務実習各論・調剤報酬 | 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(3)- -7 | 特別講師 阿部 真也 中山 章 |
| 37 | 実務実習各論・栄養療法 | 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(3)- -6 | 早坂 敬明 |
| 38 | 実務実習各論・災害医療 | 災害時医療について概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(5)- -1 | 櫻田 渉 |
| 39 | 実務実習各論・小児の薬 | 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E3-(3)- -1 | 藤崎 博子 |
| 40) 41 | 実務実習各論・ICT | 本学開発の実務実習支援システムの基本的な操作ができる。 | 中山 章 |
| 42) 43 | 実務実習各論・患者接遇と職業人マナー | 実務実習事前学習の目的を概説できる。 実務実習におけるカリキュラムの意味を説明できる。 | 特別講師 倉増 久子 櫻田 渉 |
| 44) 45 | 実務実習各論・セルフメディケーション | セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。 | 特別講師 阿部 真也 中山 章 |
| 46 | 実務実習各論・妊婦薬物療法 | 妊婦授乳婦における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | 高村 茂生 |
| 47) 48 | 実務実習各論・ファーマシューティカルコーチング | コミュニケーションにおけるスタイルの特徴とスキルを説明できる。 服薬ケアにおいて患者に応じたコミュニケーションの重要性を説明できる。 | 特別講師 江口 文明 平野 剛 |
| 49 | 実務実習の目的と意義 | 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能） 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる《模擬》。（技能） 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能） 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能） 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能） 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 | 平野 剛 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-------------------------------|--|--|
| | | F-(2)- -1,3、F-(2)- -1,3,6,7、F-(2)- -5 | |
| 50 | 実務実習各論・医療機器 | 輸液・注射、画像検査や生理学検査に関する医療機器について説明できる。 | 山本 隆弘 |
| 51 | 実務実習各論・地域医療 | 地域医療における薬剤師の役割を説明できる。 | 奥田 衣理 |
| 52 | 実務実習各論・がん薬物療法 | がん患者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | 坂東 拓哉 |
| 53 | 実務実習に臨むにあたり、実習内容について理解度を試験する。 | <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)</p> <p>適切な態度で、患者・来局者と対応できる《模擬》。(態度)</p> <p>患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>患者及び種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)</p> <p>薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知識・技能)</p> <p>代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度)</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(1)- -2、F-(2)- -1,3、F-(3)- -2、F-(3)- -1、F-(3)- -2、F-(5)- -2</p> | 平野 剛 中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明 山本 隆弘 奥田 衣理 岩尾 一生 木村 治 高村 茂生 藤崎 博子 及川 孝司 坂東 拓哉 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習試験・実技試験(50%)、実習態度ならびに実習日誌等(50%)により評価する。

【教科書】

- 「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本 上」 上村直樹、平井みどり 羊土社
- 「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 調剤業務の基本 下」 上村直樹、平井みどり 羊土社
- 「第15改訂調剤指針」日本薬剤師会編 薬事日報社
- 「今日の治療薬」南江堂
- 「医療現場で患者から学ぶ 臨床実習支援ノート」 薬学ゼミナール

【学修の準備】

- ・予習として、実務薬学 および で習った内容をまとめておくこと、また、web動画で操作手順を覚えておくこと。(60分)
- ・復習として、実習した内容を振り返り実習日誌を作成すること。(60分)

【関連するモデルコア・カリキュラムの到達目標】

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

【 医療人として】

(3) 信頼関係の構築

【 コミュニケーション】 【 患者・生活者と薬剤師】

F 薬学臨床

(2) 処方せんに基づく調剤

【 処方せんと疑義照会】 【 処方せんに基づく医薬品の調製】 【 患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】 【 安全管理】

(3) 薬物療法の実践

【 患者情報の把握】 【 医薬品情報の収集と活用】 【 処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

【 処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

【薬学部ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、高度先端技術の理解と活用、ならびに臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

【実務経験】

平野 剛(薬剤師)、岩尾 一生(薬剤師)、木村 治(薬剤師)、中山 章(薬剤師)、櫻田 涉(薬剤師)、
早坂 敬明(薬剤師)、高村 茂生(薬剤師)、藤崎 博子(薬剤師)、及川 孝司(薬剤師)、山本 隆弘(薬剤師、看護師)
奥田 衣理(薬剤師)、坂東 拓哉(薬剤師)、阿部 真也(薬剤師)、江口 文明(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験を通じて得た知識・技能・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している